

## 2026 年度 事業計画書

公益財団法人 武田科学振興財団

当財団の事業活動の財源のほとんどは、武田薬品工業株式会社からの同社株式に対する受取配当金である。

武田薬品工業株式会社が 1 株当たり配当金を 2025 年度予算作成時の年間 196 円から 2026 年度に 200 円へ増配する予定であるため、その収入増を見込み、本年度は事業規模を拡大する。

### 1. 科学技術に関する研究機関および研究者に対する研究助成（研究助成）

- (1) 武田報彰医学研究助成は、財団の理事・評議員等から推薦された、大学、研究機関の研究室立上げ 3 年未満の教授または教授に相当する立場の研究者を対象に、世界をリードする医学の先端研究に対して、1 件 3,000 万円 10 件 計 3 億円を贈呈する。
- (2) ハイリスク新興感染症研究助成は、満 55 歳未満の研究者を対象に公募を行い、人類にとって脅威となりうるハイリスク新興感染症の対策に必要な基礎研究、臨床研究、疫学・社会医学的研究等の多様な研究に対して、1 件 1,000 万円 10 件 計 1 億円を贈呈する。
- (3) 生命科学研究助成は、満 55 歳未満の研究者を対象に公募を行い、生命科学分野における新たな発見に貢献し、当該分野の進歩・発展の基盤となる独創的な研究に対して、1 件 1,000 万円 35 件 計 3 億 5,000 万円を贈呈する。
- (4) 医学系研究助成は、医学系の満 45 歳未満の研究者を対象に公募を行い、医学分野の進歩・発展に貢献する独創的な研究に対して、1 件 200 万円 240 件 計 4 億 8,000 万円を贈呈する。

継続助成は、本研究助成の 2023 年度および 2024 年度被助成者を対象に公募を行い、1 件 300 万円 40 件 計 1 億 2,000 万円を贈呈する。

[がん領域（基礎・臨床）、精神・神経・脳領域、感染領域、前記 3 領域以外の基礎、臨床：研究助成・継続助成とも採択件数は各応募数の比率配分で決定する]

- (5) 薬学系研究助成は、薬学系の満 45 歳未満の研究者を対象に公募を行い、薬学分野

の進歩・発展に貢献する独創的な研究に対して、1件200万円40件計8,000万円を贈呈する。

継続助成は、本研究助成の2023年度および2024年度被助成者を対象に公募を行い、1件300万円7件計2,100万円を贈呈する。

- (6) ライフサイエンス研究助成は、医学・歯学・薬学系を除く大学・学部や研究機関、高等専門学校に所属する満45歳未満の研究者を対象に公募を行い、生命科学分野の進歩・発展に貢献し、人類の健康増進に寄与する独創的な研究に対して、1件200万円50件計1億円を贈呈する。(対前年度計画比2,000万円増)

継続助成は、本研究助成の2023年度および2024年度被助成者を対象に公募を行い、1件300万円7件計2,100万円を贈呈する。

- (7) 特定研究助成は、研究機関を対象に公募を行い、我が国の医学の発展に向け、研究機関内の複数の部署・研究室が精力的に取り組む共同研究に対して、1件5,000万円以内12件程度計5億円を贈呈する。

- (8) ビジヨナリーリサーチ助成(スタート)は、我が国の医学分野の進歩・発展に貢献する、将来に向けて夢のある斬新でチャレンジングな研究で、成功した場合には卓越した成果が期待できるものを対象に公募を行い、1件200万円50件計1億円を贈呈する。(対前年度計画比2,000万円増)

継続助成(ホップ)は、2023年度および2024年度(スタート)被助成者を対象に公募を行い、1件500万円15件計7,500万円を贈呈する。

継続助成(ステップ)は、2023年度および2024年度(ホップ)被助成者を対象に公募を行い、1件1,000万円5件計5,000万円を贈呈する。

継続助成(ジャンプ)は、2023年度および2024年度(ステップ)被助成者を対象に公募を行い、1件3,000万円最大2件計6,000万円を贈呈する。

- (9) 理科教育振興助成は、国内の小学校・中学校・高等学校(高等専門学校を除く)およびそれに準ずる機関の教員および職員を対象に公募を行い、理科教育に貢献する研究または実践に対して、1件50万円80件計4,000万円を贈呈する。

[小学校・中学校および高等学校の採択件数は各応募数の比率配分で決定する]

以上、研究助成の贈呈金総額は23億9,700万円(対前年度計画比4,000万円増)となる。

本年度は、研究助成事業として25億4,952万円(共通費用配賦前25億1,566万円)を計上する。

2026年11月12日(木)に2026年度研究助成金贈呈式を開催する。

## 2. 研究者および学生に対する奨学助成（奨学助成）

### (1) 外国人留学者に対する助成（外国人留学助成）

日本において医学・薬学などの医療分野で研修、研究する外国人留学者に対し、月額 30 万円および渡航費（実費）の留学助成を行う。

- ① 7 指定国/地域（下表参照）については、各国選考委員会で選考され、かつ日本国内の研究機関より受入れ承認された留学候補者について所定の審査のうえ、理事長の承認を経て決定した者に対して留学助成を行う。なお、助成枠は前年度同様、計 44 名とする。留学助成期間は 3 ヶ月以上 2 年以内。なお、このうちの 5 名（台湾、タイ、フィリピン、中国、インドネシア、各 1 名）は、原則 35 歳以下の基礎研究者とし、その留学助成期間は 1 年以上 2 年以内。
- ② 7 指定国/地域以外の国については、日本国内の受入機関の受入責任者が申請した留学候補者について、日本国内の選考委員会で選考し、理事長の承認を経て決定する。助成枠は前年度同様 10 名とする。

本年度は、前年度繰越を合わせて総額 1 億 4,955 万円（渡航費含む）を留学助成する。

2026 年 10 月 12 日（月）に留学中および元外国人留学者が集う Social Gathering を開催する。また、2026 年 12 月 12 日（土）にタイ留学助成 60 周年記念行事をバンコクにて開催する。

（ ）内は基礎研究者の数

国/地域	2026 年度人数計画
台湾	4 名（1 名）
タイ	8 名（1 名）
フィリピン	8 名（1 名）
韓国	4 名
中国	8 名（1 名）
インドネシア	8 名（1 名）
ベトナム	4 名
7 指定国/地域 小計	44 名（5 名）
上記 7 指定国/地域以外	10 名
合計	54 名

(2) 医学部博士課程入学者に対する助成（医学部博士課程奨学助成）

医学部医学科卒業見込学生および医学部医学科卒業者で、指定大学8校（北海道大学、東北大学、東京大学、慶應義塾大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学）の医学（系）研究科博士課程基礎医学系の入学者に対し、奨学助成（年間360万円、最大4年間）を行う。

指定大学8校で募集、選考、推薦された候補者（原則各大学から2名 計16名）について、理事長が最終決定する。

本年度は、2023年度から2025年度の奨学助成者45名と本年度の16名を合わせた61名に助成金 総額2億1,960万円を奨学助成する。

また、2024年度助成者で継続奨学助成の推薦を受けた者の中から、審査の上、研究優秀者（2名）に対し、1件50万円、計100万円を追加で奨学助成する。

2026年5月22日（金）に2026年度医学部博士課程奨学助成認定式を開催する。

(3) 海外研究留学者に対する助成（海外研究留学助成）

留学出立年度末に38歳以下の医師で博士号(PhD)保持者またはPhD取得を目指す大学院博士課程在籍者に対し、海外滞在費として年600万円の2年～4年（2年を超える滞在の場合は、2年終了前に延長の可否を審査する）、および渡航費往復60万円の留学助成を行う。

選考委員会で、業績に加え、信条、留学中の研究計画など、多様な観点から12名を選考し、理事長が最終決定する。

本年度は、8名が4年目、10名が3年目、2年目、12名が1年目となり総勢40名に総額2億4,112万円（渡航費含む）を留学助成する。

2026年2月9日（月）に2026年度海外研究留学助成認定式を開催した。

本年度は、奨学助成事業として6億7,901万円（共通費用配賦前6億5,871万円）を計上する。

3. 我が国の医学界における優れた研究者に対する褒賞（武田医学賞）

財団の理事・評議員等から推薦された、医学界において顕著な業績を挙げた候補者につき、選考委員会で受賞者2名または2件を決定し、武田医学賞として賞状、賞牌、楯ならびに副賞（1件3,000万円）を贈呈する。

2026年11月12日（木）に2026年度武田医学賞授賞式ならびに祝賀式を開催する。

本年度は、武田医学賞事業として9,247万円（共通費用配賦前8,414万円）を計上する。

4. 科学技術の時流に合ったテーマによる国際シンポジウムの開催（国際シンポジウム）

生命科学ならびに薬科学における未解決の問題を解明するために、国内外の科学者が一堂に会し、時宜にかなったテーマを基にその叡智と知識を交換する国際シンポジウムを開催する。

本年度は、第23回 武田科学振興財団 生命科学シンポジウムを開催する。

テ ー マ : The New Normal of Translation: Emerging Hidden Dimensions of Gene Expression

組織委員長 : 松本 有樹修 (名古屋大学 教授)

組織委員 : 山中 伸弥 (京都大学 教授)  
田口 英樹 (東京科学大学 教授)  
阿部 洋 (名古屋大学 教授)

講 演 : 20名を予定 (国内4名、海外16名)  
ポスター発表 (公募)

会 期 : 2027年1月22日 (金) ~23日 (土)

場 所 : コングレコンベンションセンター (大阪市)

参 加 者 : 300名の予定

ポスター褒賞 : シンポジウムに応募したポスター発表者を対象に、選考委員会で決定し、褒賞金として50万円1件、30万円8件、計290万円を贈呈する。

本年度は、国際シンポジウム事業として1億1,193万円 (共通費用配賦前1億103万円)を計上する。

5. 科学技術の振興に関する出版物の発刊 (本草医書発刊)

(1) 杏雨書屋蔵書の復刻版や学術書等を発刊する。

本年度の発刊予定は、『黄帝内経太素残卷』『宋版経史証類備急本草』『聖徳太子伝暦校異・付注解説』『磧砂版大蔵経目録13冊』『総合図録 流行り病を乗り越えて』の5冊である。

(2) 杏雨書屋機関誌「杏雨」29号を発刊する。

本年度は、本草医書発刊事業として3,848万円 (共通費用配賦前3,205万円)を計上する。

6. 本草医書、東洋学を中心とした図書資料の保管、整理、収集および公開（本草医書公開）

(1) 研究者を対象にした閲覧、複写、所蔵品の図版掲載希望に対して、必要に応じ運営協議会の審査を経て対応する。

(2) 常設展示は以下のテーマ・期間で実施する。

テーマ： 武田長兵衛と杏雨書屋

期 間： 2026年2月9日～2027年2月12日

特別展示会は例年通りテーマを決めて春と秋に実施する。

4月： 書物に見る酒と茶と煙草（監修者： 麥谷 邦夫 運営協議員）

10月： テーマ未定、2026年6月頃決定（同： 東 徹 運営協議員）

(3) 特別展示会のテーマに基づく研究講演会を年2回開催する。

(4) 蔵書、軸物等の補修は資料の重要性和損傷度を吟味し、優先順位をつけて実施する。

(5) 本草医書、東洋学を中心とした図書資料の収集を進める。杏雨書屋にとって貴重な図書を購入し所蔵図書の充実を図る。上限を3,000万円とする。

(6) 杏雨書屋研究員4名の研究成果について、2026年7月に研究発表会を実施する。

本年度は、本草医書公開事業として1億8,334万円(共通費用配賦前8,754万円)を計上する。

以 上